

森のコモンズ インクルーシブなみんなの居場所

豊かな自然に包み込まれ、さまざまな施設が連なる明石公園内のように、木々の間にさまざまな活動が連なり、市民それぞれが思い思いに自分の場所として利用できる地域交流センターをつくります。それは、インクルーシブなみんなの居場所です。
緑豊かな明石公園、情報の集積場所である図書館、2つをつなぐ地域交流センターが互いに拡張しあい、融合される施設づくりを提案します。



豊かな自然に包み込まれ、県立図書館とゆるやかにつながり、様々な活動・交流が広がっていく

4つのテーマを総合的に実現する、明石公園の魅力から導きだした、ランドスケープのような交流施設

自然と人工が融け合う明石公園のランドスケープを活かす

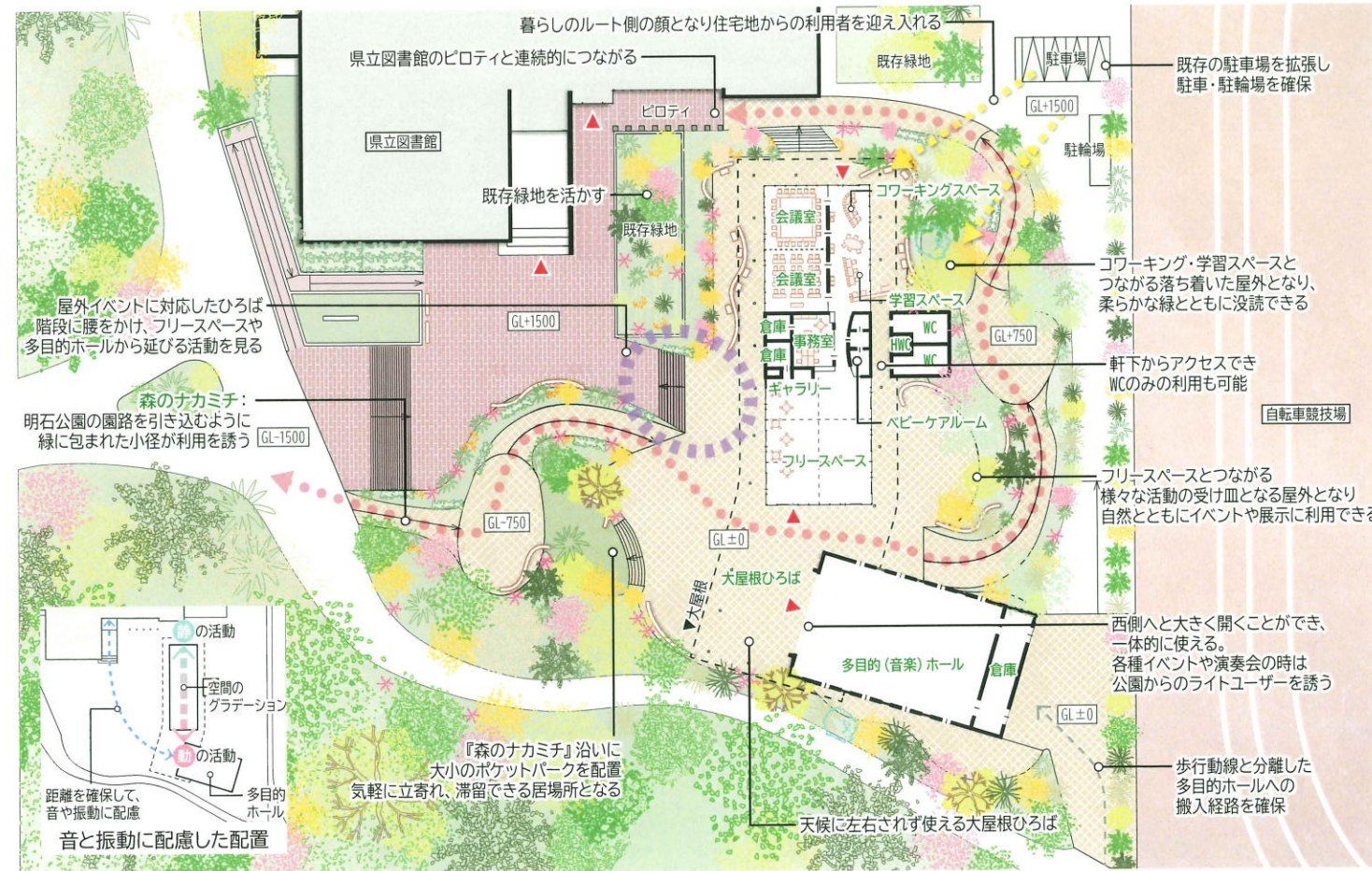
- 海から台地へ上る地形を活かした明石城の構築物と豊かな緑が融け合う、明石公園の魅力的なランドスケープのあり方をそのままに、自然と融け合う交流施設をつくります。
- 旧市立図書館より建築が小さくなる分だけ広がる屋外空間を活かし、周囲の豊かな緑を敷地内まで引込みます。
- 西側からの緑に挟まれた登り道を抜けると広がる視界を建築の配置に活かす等、土地と自然環境の魅力を拡張・活用する施設づくりを行います。

ゆるやかなアプローチと県立図書館とのつながり

- 前面の園路から県立図書館の高さまでの、誰もが通りやすい、ゆるやかなアプローチをつくります。
- 旧市立図書館撤去後の地盤高さを利用して床レベルを設定し、ゆるやかなスロープ状のアプローチと融合させて地域交流センターを配置します。南北方向に配置することで生まれる、県立図書館とのゆるやかなつながりにより、それぞれの利用者の関係づくりを促します。

明石公園と、さらに周辺にある施設との連携、利用の誘引

- 地域交流センターに至るルートには、明石駅から明石公園を通る「自然のルート」、天文科学館・文化博物館からの「文化のルート」、東側の住宅地や明石高校方面からの「暮らしのルート」があり、様々な潜在的利用の可能性を活かす施設をつくります。
- 憩いや通学のついでを誘う居場所、スポーツや学習といった目的志向に応える機能、観光や鑑賞といった非日常の記憶等、様々な利用動機の提供ができる施設をつくります。



【テーマ1】ユニバーサルデザインの導入

誰でも気軽に訪れやすい、みんなを迎え入れる施設

県立図書館へのメイン動線となる『森のナカミチ』

- 市立図書館跡を緑のランドスケープとして整備し、県立図書館へとつながる、ゆるやかなスロープ『森のナカミチ』を通します。みんなのメインストリートとなり、誰もが同じ利用環境となります。そのまんなか地域交流センターを配置することで、自然と一体となった交流空間をつくります。

スロープと融合した地域交流センター内はすべてフラット

- 地域交流センター本体も『森のナカミチ』の途中にある立ち寄り空間のひとつ。スロープと融合しつつも、多目的ホールやフリースペース等、施設内は原則フラットな床とします。

みんなが使いやすく、分かりやすい

- 見通しが効き把握しやすい施設構成、ピクト中心のサインや色彩による案内等、誰でも迷わず使いやすい施設とします。
- スタッフが状況を把握しやすく、利用者とスタッフが気軽に声を掛け合えしやすい施設をつくります。

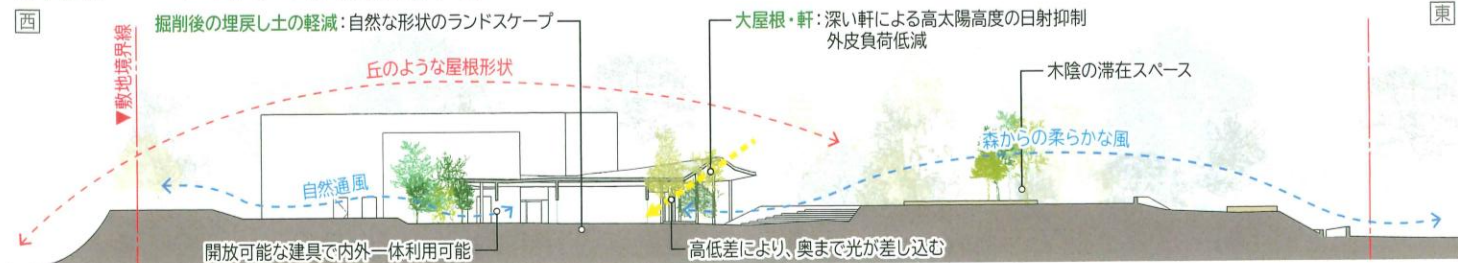
誰でもそれぞれの居場所を見つけられる、多様な空間

- 多人数でワイワイ使う交流場所だけでなく、少人数や家族で、あるいはひとりでゆっくり過ごせる場所にもなり、独居者や不登校の子ども達もふくめて、誰もがそれぞれ自分に合った居場所を見つけられる、多様性のある空間をつくります。

DX化による誰ひとり取り残さないサービス提供施設

- 市立図書館・県立図書館との連携による電子書籍やWEB提供のデジタル資源閲覧、災害情報等にアクセスできる環境を提供するスペースを設置するとともに、タブレット貸出や利用支援サービスの提供を提案します。

【評価テーマに対する技術提案書】



【テーマ2】環境への配慮とライフサイクルコストの削減

明石公園の、「ここにある自然」を最大活用し、光と風と緑を活かす省エネ建築

森のアプローチから続く光と風の通り抜けの継承

- 森の間を抜けて届く風を取り入れやすい施設レイアウトとし、敷地内にも樹木による木陰を増やすなど、緑豊かな公園の特性を活かして快適環境をつくります。
- 晴天が多く日照時間が長い明石の自然光を取り入れつつ、屋根の軒を深くすることで熱負荷を抑えます。

施設特性を踏まえた ZEB Ready 実現

- 多数のZEB化施設の実績を活かし、高断熱・高効率機器の採用等により一次エネルギー消費量の50%を削減し、ZEB Readyを実現します。
- 開放的な施設ながら閉じるところは閉じ、断熱や遮音を十分に行う等、本施設の特性を踏まえた環境設計を行います。

木質材を活かした「木育」エコ空間

- 内装や家具・サイン等に木質材・県産材を適材適所に活用し、心地よい空間、落ち着いて学習ができる空間をつくとともに、カーボンニュートラルに貢献します。
- 再生利用率が高い低環境負荷材であるエコマテリアル・リサイクル材を積極的に採用します。

【テーマ3】工事費の抑制と工期の短縮

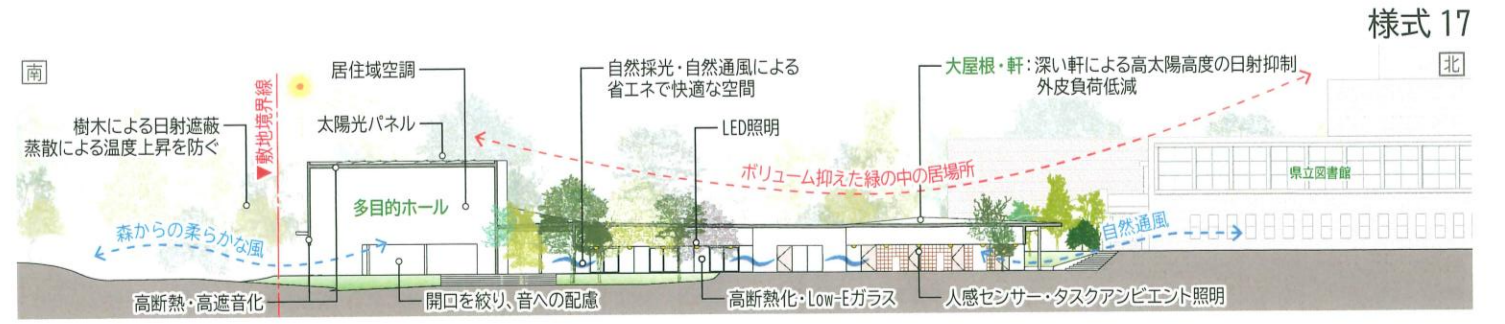
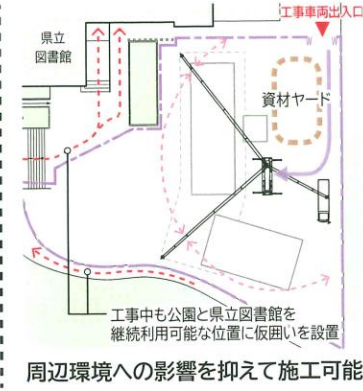
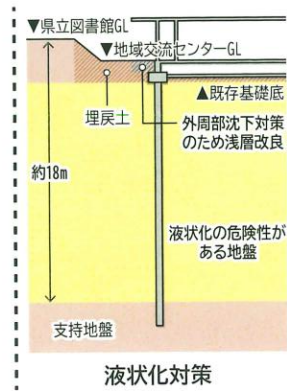
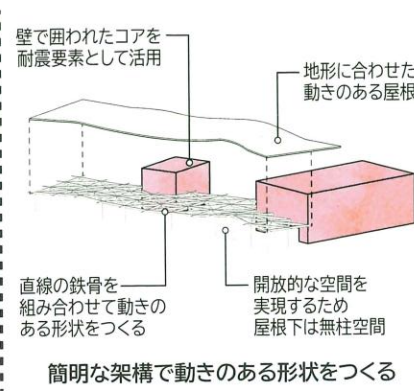
敷地の特殊条件をプラスに活かすことで工事費を抑制し工期を短縮

既存解体撤去後の埋戻し土を最小化

- 旧市立図書館の1階床レベルまで埋戻しをするには多量の購入土が必要で、旧市立図書館躯体撤去後の基礎底レベルを新たな基礎底とし、撤去後の埋戻しと新築前の掘削という土工費を削減します。
- 既存の地下躯体が占めていた空間内に、新たな基礎躯体を極力納めることにより掘削範囲の広がりを避け、埋蔵文化財調査範囲を縮小し、工期の短縮を図ります。

軽量で短期間に建てられる構造

- 通常車両が通行しない公園内の工事となるため、生コン車を要するRC躯体を極力削減します。
- 上部躯体を軽量化、柱の無い広いスペースのためのロングスパン化を合理的に短工期でつくれる、リサイクルも可能な鉄骨造を主体とします。箱状に閉じた部分を耐震要素として活かし、簡明な架構で動きのある形状をつくります。



【テーマ4】誰もが訪れやすく、にぎわいや交流が創出できる利用しやすい複合施設

明石公園の自然に包まれた多様性のある空間で、多様な人々が集い、活動・交流を育む『森のコモンズ』

明石公園のランドスケープそのままの交流空間

- 明石城の石垣が映える公園のあり方そのままに、自然と建築とが融合する交流空間『森のコモンズ』をつくります。
- 旧市立図書館・県立図書館の形態・色彩を取り入れた四角いボリュームと、人々の活発な活動が見える化する、地形にじむおだやかで軽やかな屋根により施設を構成します。

『森のナカミチ』に沿って、さまざまな活動がにつながる

- 『森のナカミチ』沿いにベンチや木陰、大小の広場等、公園の園路同様に気軽に散策し、滞在できる場所を設けます。家族やグループ・ひとりで居場所があり、スポーツ等「動」の活動、読書等「静」の活動、様々な利用ができる施設とします。



様々な活動、様々な交流のあり方を包み込むやさらかな空間

- 内外が分け隔てなくつながるとともに、動から静へ、様々な場所があり、子どもからお年寄りまで、誰もが自分の居場所とできる、やさらかな空間からなる施設をつくります。
- 交流のあり方は様々です。濃密な関係性に、柔らかな繋がり、集まって共同作業、リモートで対話、作品や書籍にメッセージをのせて交感する等、リアルな場とDXを活用し多角的な交流ができる施設をつくります。
- 学習・コワーキングスペースにはマイクロライブラリーを設置。図書館機能を補完するだけでなく、「本のある居場所」を手がかりに、人と人がつながる場を提供します。
- 調乳やおむつ替え場所とは個別の授乳室、子どもサイズのトイレ等、子育て世代も利用しやすい施設をつくります。



多様な使い方ができる、エディブル（編集可能）建築

- 掲示にも間仕切にも使える可動パネル、ベンチにも展示台にもなる可動家具、自由に飾り付けできる有孔板の壁、傷つきにくい丈夫な床等、活動目的に合わせて市民の手で気軽にアレンジできる、エディブル（編集可能）な施設をつくります。
- 誰かの利用の工夫が新たな利用のヒントになり、アイデア次第で可能性が広がり、改変を受け入れられる余白がある「使いつつ・つくり続けられる」建築をつくります。

災害時の一時避難施設としても活用しやすい防災施設

- 避難場所になる多目的ホール、本部を設置するフリースペース、マンホールトイレを設置できる広場、隔離や医務室に使える会議室等、適切に区分でき活用しやすい施設とします。

